

がん患者における健康食品およびサプリメントの使用に影響を及ぼす要因の解明

医療費の削減および国民の健康増進・予防という観点から、セルフメディケーションを推進していくことが提唱されています。海外では、セルフメディケーションの普及が進んでいます。実際、様々な集団を対象とした健康食品・サプリメントに関する使用実態に関する報告がされています。

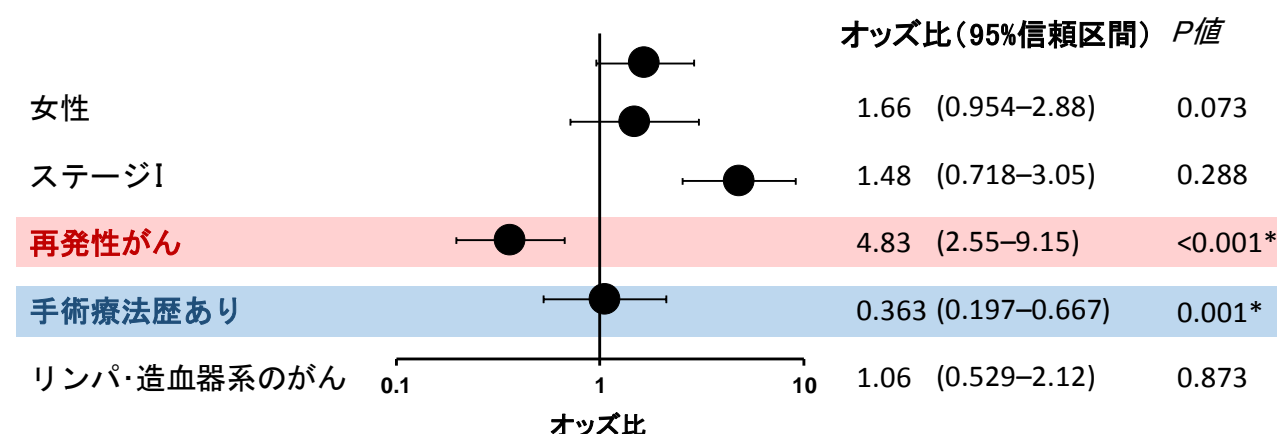
がん患者の健康食品・サプリメントに対する関心は高いですが、日本におけるがん患者における健康食品の使用に関する報告はほとんどありません。本研究では、健康食品やサプリメントについて、がん患者における使用実態を調査および解析し、その使用に影響を及ぼす要因について検討しました。

2014年10月1日から2015年3月31日に岐阜市民病院に入院した患者を対象としました。調査項目は年齢、性別、がんに関する情報、化学療法・手術療法歴、入院時に使用していた医療用医薬品、健康食品およびサプリメントとしました。各項目が健康食品およびサプリメントの使用に及ぼす影響を評価するために、多変量解析（多重ロジスティック回帰分析）を行いました。

健康食品およびサプリメントを使用している患者は全体の5.8%（58/1,012人）でした。

多変量解析の結果を図1に示します。再発性がんの患者で健康食品およびサプリメントの使用率が有意に高く [オッズ比 (OR)、4.83]、手術療法歴のある患者で使用率が有意に低くなりました [OR、0.363]。再発性がん患者は健康食品およびサプリメントを使用することが多く、手術療法歴のある患者では使用することが少ないことが分かりました。

図1 がん患者において健康食品およびサプリメントの使用に影響を及ぼす因子



本研究では、がん患者における健康食品等の使用に影響を及ぼす要因を明らかにしました。再発性のがんである患者では健康食品等の使用率が高いこと、また手術療法を行っている患者では使用率が低いことが明らかになりました。がん患者による健康食品等の使用の増加に伴い、医療従事者がその実態を把握し、健康食品等についての適切な情報提供を行うことが

求められます。

【発表論文】

吉田阿希，館知也，兼松勇汰，杉田郁人，野口義紘，大澤友裕，安田昌宏，水井貴詞，後藤千寿，寺町ひとみ，がん患者における健康食品およびサプリメントの使用に影響を及ぼす要因の解明，医療薬学，44，49-53，2018.